

## 175号

先日、北海道新聞に、白老町の白老小学校5年生の北平 将君が1年生の時から新聞（新聞の名前は「しょう新聞」だそうです）を発行し続けて今年で5年、175号に達しているという記事が載っておりました。

取材、編集、イラストまで全部一人でこなしているそうで、発行部数も今では140部だそうです。

私も、塾頭通信を始めることになって以来、1日に1本は必ず原稿を書くことを目標にしておりますが、これが意外にきついことが分かりました。

以前、小檜山 博さんから、全集を出された直後だったと思いますが、「書きたいことはまだまだ沢山あるんだ」ということを聞かされて、作家の頭の中はすごいなとつくづく感じ入ったことを思い出しています。

私といえば、始めた頃は勢いで書いておりましたが、30号にして何となく息切れしそうです。

そんなこともあって「しょう新聞」175号というのは、正直驚異的だと感心しているところです。

北平 将君の素晴らしいところは、まず、誰かにいわれて始めたことではない、ということです。発端は、同級生に「しょう新聞」という名のバースデーカードを贈り喜ばれたのがきっかけだったとのことですが、以来、一人の力で新聞発行を続けて175号というわけです。

また、記事、つまり将君の興味、関心の対象が、地域の歴史や口蹄疫といった社会問題など幅が広いこと、そして、それをよく調べて記事にしていることも非常に素晴らしいと思います。

面白そうだなと思っても、思うだけで終わってしまうケースが多いのではないのでしょうか。それは、子どもだけではなく大人も同じだと思いますが、そうした状況から一歩踏み込んで、調べてみる、確かめてみるといった積極的な行動に持っていくというのは、そうそう簡単なことではありません。

では、将君は何故そんな面倒なことを5年間も続けてこられたのでしょ

う？ それは、周りの皆さん、同級生だけではなく大人達からも評価されてきたからではないかと思います。しかも、町立図書館が2年程前から閲覧用として専用ファイルに綴じているというように、上辺だけのものでないことが大きかったと思います。そういう意味では、町立図書館にも敬意を表したいと思います。

新聞を作るということは、第三者が読むということが前提な訳ですから、そのことを想定しながらテーマを選び、取材して記事を書き、編集するという大変高度な作業を必要とします。将君は、「しょう新聞」作りを通して大きく成長してきたに違いありません。

将君は、中学生になっても新聞づくりを続けるとのことですが、今後の活躍に期待しています。

という訳で、私としても将君に負けないよう、40号、50号といわず三桁目指して頑張ることにします。（塾頭 吉田 洋一）